



「北陸新幹線」

同窓会長 伊東尚志
(上市町長)

日頃から同窓会活動に温かいご理解とご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げますと共に同窓会員の皆様にはますますご社健で活躍のこととご推察いたします。

さて、本年3月14日に構想から半世紀を経て、待望の北陸新幹線が開業いたしました。ゴールデンウィーク期間中においては、天候に恵まれたことから県内の殆どの観光地やイベントでは大勢の観光客で賑わいをみせ、新幹線開業効果が確実に現れ始めており、新幹線利用で滞在時間が増加したことから、上市町まで初めて足を延ばす観光客が見られるなど、着実に開業効果が波及してきていると感じられ、今後の増加が期待されるところであ

ります。

町の顔である上市駅におきましても照明のLED化の案内看板の設置、公衆無線LANサービスの整備により観光客の利便性向上を推進して参りましたが、今後更に本町への新幹線開業効果を多くの皆様方に実感していただけるよう努力していく所存です。

県外にお住いの同窓会員の皆様方にもぜひ、この機会に「上市町」へ足をお運びいただきますようお願いいたします。

最後になりますが、母校である上市高校の益々の発展と会員の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、あいさついたします。



同窓会総会に寄せて

校長 角 間 匡 之

上市高等学校同窓会会員の皆様には、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育の充実・発展に、多大なご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

この春に着任し4ヶ月が過ぎました。雄大な剣岳の姿、絢爛たる桜並木の花の回廊、校庭の立派な木々、校舎横を流れる上市川、そんな自然豊かな環境からも、歴史と伝統を誇る学舎なのだと感じることができます。

この春、南砺市出身の育種家で、世界の食糧危機を救う基となった小麦を作った稲塚権次郎を描いた映画が公開され、話題になりました。私は生物の教師ですが、大学では遺伝育種学を専攻していたので、富山県出身の偉大な二人の育種家を誇りに思ってきました。そのもう一人が杉谷文之です。

米の味には誰も見向きもしなかった頃、おいしい米が求められる時代が必ず来ると「コシヒカリ」の栽培方法を研究し、世に初めてブランド米を送り出した育種家こそ、上市農学校卒業生の杉谷文之です。上市では誰もがよく知る話だと思っていましたが、あまり知られていないようで少し残念です。

日本一のブランド米「コシヒカリ」の有名産地は新潟の魚沼です。しかし、コシヒカリを世に出した杉谷は、故郷の上市へ帰ってその栽培を推進したはずですが、この時代の流れ、剣岳の麓のおいしい水の存在から推測すると、上市では今も、魚沼産コシヒカリを超える米が栽培されているのではないかと私は考えています。

本校の大先輩は栽培が難しい品種を我が子のように育て、一流のブランド米にまで高めることで、今日の食文化の基礎を築かれました。その偉業に近づけるよう、一人一人の成長を根気強く支援する学校運営に心がけたいと強く思っています。



心のふるさと

教頭 遠 藤 俊 陸

私は、学生生活を終えた昭和56年4月から教員生活の初めの2年間を臨任講師として、上市高校の先生方、そして生徒の皆さんとともに、勤めさせていただきました。当時は普通科、農業科、畜産科、農林工学科、生活科、薬業科があり、各科の特色が明確にあらわれ、また各クラスにも担任の先生のもと、濃い色がありました。私は職員の中でも一番若く、毎日の授業は勿論、田植え競技会、マラソン大会、体育大会等への出場、学園祭の野外ステージで下手な歌を披露もしました。また、プラスバンド部の顧問、生徒会誌『剣嶺』の編集に携わったことなど、楽しく懐かしい思い出ばかりです。また、教育の面でも多くのことを学ばせてもらいました。生徒理解の大切さや難しさ、教えることの奥深さ、大学進学しか頭がない高校の先生方が、到底知るこのできない多くの

ことも学びました。後の私の大きな財産となりました。

そして縁があって、平成24年4月に再び本校に赴任いたしました。「心のふるさと」に帰ってきた喜びとともに、この上高でこれからの私のまとめの教員生活が始まるのかと思うと、無性に身の引き締まるのを感じました。私の親しくさせていただいている年輩の同窓生の方が、「上高の生徒であったことを誇りとして今まで歩んできた。農場実習で我慢強さと思いやりの心を学ばせてもらった。今の生徒にも是非伝えて欲しい。」と言われます。また、今年7月の2学年県外進路研修の進路講話において、講師の同窓生の方から、生徒の心に響くお叱りの言葉や激励の言葉をいただきました。母校を愛する愛校心の賜と感じます。

同窓会定期総会も回を重ね本年で第67回となります。同窓生の皆様と諸先生方が一体となって築きあげられた校風と伝統を思うにつけ、感慨もひとしお深いものを感じます。今後とも、皆様には本校の発展のために限りないお力添えを賜りますようお願い申し上げます。